

芝山町河川水質調査結果一覧表(冬季)

採取日: 令和7年2月10日

調査項目	調査地点	①	②	③	④	環境基準※
		高谷川				
1 天候	—	晴	晴	晴	晴	—
2 時間	—	11:55	12:15	12:30	12:55	—
3 水温	°C	12.8	10.8	10.8	10.1	—
4 水素イオン濃度 (pH)		7.6	7.7	7.8	8.0	6.5以上8.5以下
5 生物学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	0.6	1.4	1.0	0.6	2以下
6 浮遊物質 (SS)	mg/L	6.3	13.0	32.0	6.9	25以下
7 大腸菌数	CFU/100mL	29	80	150	6500	300以下
8 総窒素含有量 (T-N)	mg/L	1.8	3.9	3.4	3.3	—
9 総りん含有量 (T-P)	mg/L	0.03	0.06	0.13	0.09	—
10 溶存酸素含有量 (DO)	mg/L	11.0	11.0	11.0	11.0	7.5以上
11 電気伝導率 (EC) (at25°C)	mS/m	55	53	40	37	—

※「生活環境の保全に関する環境基準」流入河川のA類型に定める河川の基準値

【用語解説】

水素イオン濃度 (pH)	酸性、アルカリ性を示す指標となるものです。
生物学的酸素要求量 (BOD)	水中の有機汚濁物質を分解するために微生物が必要とする酸素の量のことで、値が大きいほど汚れているということになります。
浮遊物質 (SS)	水中に混ざっている直径2mm以下の不溶解性の粒子物質のことで、水の濁りの原因となるほか、太陽光線の透過を妨ぎ、水中生物に悪影響を与えます。
大腸菌群数	水中に存在する大腸菌群の数のことです。
総窒素含有量 (T-N)	水中の富栄養化の指標として用いられます。窒素は、植物の生育に不可欠なものですが、大量の窒素が水中にあると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすとみられています。
総りん含有量 (T-P)	水中の富栄養化の指標として用いられます。りんは、窒素と同様に植物の生育に不可欠なものですが、大量のりんが水中にあると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすとみられています。
溶存酸素含有量 (DO)	水に溶解している酸素の量を示します。水生生物の生息に必要であり、数値が大きいほど水生生物の生息において良好な環境といえます。
電気伝導率 (EC) (at25°C)	水が電気を通す能力を示します。水中の電解質濃度(イオンになって溶ける塩類濃度)を一括して推定する指標で、海水の影響や混合状態等を推定したりするのに用いられます。